



●今年度新規採択された農地整備事業地区をご紹介します！

○津久毛地区

津久毛地区は栗原市金成に位置し、面積約366haの稲作を中心とする水田地帯です。現在、津久毛地区では大規模土地利用型農業を展開しており、さらに水稻・大豆・ねぎ等の作付けを目指していますが、ほ場の区画や農道が狭いことや、田んぼが湿田状態であるなどの悪条件により、営農規模の拡大や畑作物の作付面積拡大に課題を抱えています。

そこで、農地整備事業を実施することで地区の抱える課題を解決し、農作業の効率化と維持管理労力の軽減、さらに田んぼの汎用化による高収益作物の導入と耕畜連携の取組推進を目指します。

さらに、今年度から地区の担い手を中心に、加工業務用ばれいしょの試験的な作付を始めており、地区として高収益作物を導入するための取組を進めています。



津久毛地区 計画平面図



ばれいしょ収穫の様子



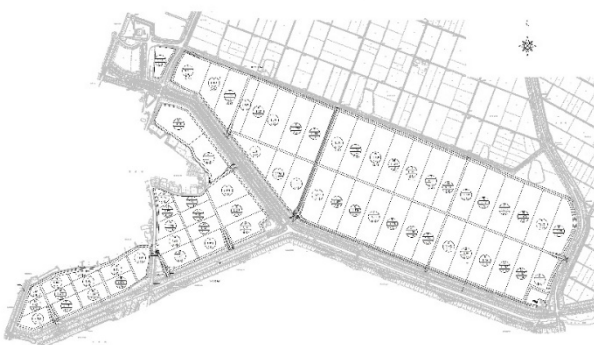
収穫したばれいしょ

○瀬峰地区

瀬峰地区は栗原市瀬峰に位置し、面積約60haの水田地帯です。瀬峰地区の農地は、昭和初期の開墾事業にて一度整備されているものの、用排水路は兼用の土水路であり、農地の排水が悪く水稻以外の作物の導入が難しい地域となっています。また、農道の幅も狭いことから大型の農作業機械を導入した生産性の高い営農経営が難しい状況にあります。

そこで瀬峰地区では、農地整備事業により前述の課題を解決し、水稻栽培における生産性の向上を目的とするほか、近年導入が進みつつある水稻直播等の新技術や地区周辺で栽培されているかぼちゃ、スナップエンドウ、そらまめといった高収益作物の導入により、田んぼの汎用化による収益向上を目指しています。

農地整備事業 瀬峰地区 計画平面図



かぼちゃ



スナップエンドウ



そらまめ

●農地集積担当者研修会を開催しました！

当事務所では、農地整備事業を実施している地区や、今後の実施を計画している地区において、農地整備と併せた効率的な農業経営が図られるようにするため、担い手への農地集積を支援しています。

令和元年7月16日（火）、当所管内の市、土地改良区、農業委員会及びJA等の農地集積担当者計42人が参加し、「令和元年度農地集積担当者研修会」を開催しました。

研修会は、農業振興部担当の「農地集積と農地中間管理事業について」、農業農村整備部担当の「農地整備事業の実施状況と農地集積について」をテーマとした2部構成とし、県及びみやぎ農業振興公社の担当者から概要の説明と県内取組事例の紹介を行いました。

参加者は熱心に聞き入り、また活発な意見交換もなされ、情報共有の場として有意義な研修会となりました。

当事務所では今後も、関係機関・団体が情報を共有し担い手への農地集積を図ることができるよう、事業の推進に取り組んでまいります。



農地集積担当者研修会の様子

●マラウイ共和国 から技術研修員が現地視察に訪れました！

今年もアフリカのマラウイ共和国から3名の研修員が来県し、令和元年7月16日（火）から令和元年8月2日（金）までの18日間の日程で県内各地を視察しました。この研修は、宮城県及びJICA（独立行政法人国際協力機構）とマラウイ共和国との合意に基づき、マラウイ共和国の農業水利技術者育成支援を目的とした国際技術協力事業の1つで、平成23年度から毎年実施しているものです。栗原管内においては、令和元年7月25日（木）に農業用ダムである宿の沢ダムの見学を行い、ダムの維持管理方法について管理者の小山田川沿岸土地改良区から説明を受けました。午後には、瀬峰の農場を訪問し、園芸施設における作物の栽培方法や堆肥を使った土づくりについて学びました。



宿の沢ダムにて



瀬峰の農場にて（美味しいトマトも試食させて頂きました）

●有壁地区で「そばの種まき&生き物調査のボランティア」が行われました！

当部では、中山間地域等の農村集落の活性化を図ることを目的に、援農ボランティアや都市農村交流の実施体制づくりを支援しています。

令和元年7月28日（日）、栗原市金成有壁地区で「そばの種まき&生き物調査のボランティア」が行われました。古い歴史を持つ有壁地区では、農地整備がなされていないほ場が多く、現在、農地整備の推進に向けて話し合いを進めています。これらをきっかけとし、そばや酒米の栽培を増やしたり、田んぼの生き物が過ごしやすいよう環境に配慮した田んぼづくりを目指しており、地元の有壁農地整備推進委員会が中心となって、このボランティアを企画しました。5月の「酒米の田植えボランティア」に引き続き2回目のボランティア活動で、栗原市及び仙台市から小・中学生や前回のリピーターなど15人がボランティアとして参加しました。

当日は真夏のような暑さでしたが、和気あいあいとした雰囲気の中で、そばの種まきや生き物調査が行われました。

有壁地区では、秋の稲刈り作業についても「援農ボランティア」を実施する予定としています。当部は、今後も栗原市内における農村集落の活性化に向けて積極的に支援してまいります。



そばの種まきボランティア



田んぼの生き物調査ボランティア

●地域活性化ビジョンづくりに向けたワークショップを行っています！

当部では農地整備事業の要望がある藤沢地区（栗原市瀬峰）と有壁地区（同市金成）の2地区において、地域住民による「地域活性化ビジョン」の策定を支援しています。

「地域活性化ビジョン」とは、地域の資源や課題などを整理し、どのように活性化させていきたいか、どのような農業を行っていききたいかといった地域の将来像を、地域住民の合意形成を図ったうえで策定する計画のことをいいます。ワークショップではこの合意形成を図るため、参加した人たちからの意見を付箋に書き出し、模造紙に貼り付け、似ている意見をグループ化して発表する形式で進めています。

藤沢地区と有壁地区では、10月までに各地区3回のワークショップを行い、「地域活性化ビジョン」を策定する予定です。



ワークショップの様子① 地や資源や課題についての意見出し



ワークショップの様子② 地や資源や課題についての発表

●～田んぼの水はどこからくるの？農業施設見学会～が開催されました！

令和元年9月7日に栗原市、登米市、一関市、迫川上流土地改良区で構成される「迫川上流地区管理体制整備推進協議会」主催による農業施設見学会が開催されました。この取組は地域を流れる農業用水の仕組みについて子供たちに学んで貰うことを目的として昨年度から始まったもので、昨年は台風の影響で中止となったため、今回が初の開催となりました。当日は迫川上流管内の小学校の児童や保護者など計19名が参加し、荒砥沢ダム、荒砥沢発電所、栗駒山麓ジオパークビジターセンターを見学しました。施設の稼働状況を見たり、模型やパネルを使った説明・展示によって楽しみながら学ぶことができましたようです。来年度も開催を予定していますので、興味のある方は是非ご参加ください。



集合写真



ダムから河川への放流の様子も見学

●沼田・八木地区で田んぼダム研修会が開催されました。

沼田・八木地区では、農地整備事業実施と併せて、大雨時の洪水被害の軽減を目的とした田んぼダムの導入を試験的に行っています。本地区における田んぼダムの取り組みを進める中で、効果の検証方法や現場での管理方法など様々な課題が見えてきたことから、田んぼダムの研究を進めている新潟大学の研究者をお招きし、令和元年7月18日（木）に研修会を開催しました。

田んぼダムの仕組みを簡単に説明しますと、大雨が降った際に、田んぼの排水口に小さい穴を開けた調整板を設置することにより、水田に降った雨水を貯留し、時間をかけて排水路に排水することで、下流域における急激な増水を軽減するための施設です。

研修会では、田んぼダムの効果を詳細に検証するための方法や、作物の生育ステージにおける実施時期などの意見交換を行い、現地視察では、地元が維持管理する際の注意点などを指導していただきました。今後も田んぼダムの効果を最大限に生かせるための方法を考えながら、事業に取り組んで参ります。



現地研修の様子

発行：北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木 5-1

TEL 0228-22-2111 (代表) / FAX 0228-22-9284

URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-ns/>